



大型ペープサート

鬼の子の角のお話

礒永秀雄 作

保育士にとっても感動体験の時間に

沖縄県 保育士 30代

鬼の子の角のお話は0歳児から四歳児 60名での鑑賞。公演の数日前から、子どもたち(2歳児~4歳児)と役者の方のことやペープサートを鑑賞する態度について話し合っていた。また、鬼の登場に驚く子もいるので、簡単なあらすじや優しい鬼の話であることを伝えていた。

公演を楽しみにしていた子どもたち。当日の舞台設営にも興味津々で窓越しからのぞいたり、役者の方と挨拶をかわし手をふったりと和やかな雰囲気なかで公演が始まった。

鬼の登場に泣き出す子がいないか心配であったが、一人も泣き出すことなく役者さんの優しく澄んだ声と巨大ペープサートに見入っている子どもたちであった。

鑑賞後、子どもたちに感想を聞くと、「やさしいおにだからこわくなかった」「あかちゃんおにかわいかった」「どうぶつさんたちやさしかった」などと発表してくれた。また、「鬼の子のお父さんやお母さんみたいに困っているお友だちがいたらどうしたらいいかな?」の問いかけに「おもちゃもっていたら、かしてあげる」「なみだふいてあげる」「てつだってあげる」「いっしょにあそんであげる」などと発表してくれた(4歳児)。

支援児や気になる子が増えている現状もあり「自分のことも相手のことも大事にできる子に育ててほしい」、「相手を思いやることのできる子に育ててほしい」と思いながら公演を観せてもらった。鬼の子の角のお話の内容(動物たちが相手を思いやり、困っている者の力になろうとする姿)や優しい絵、役者の演じ方にも感動したが、目を丸くして一生懸命、

見入る子どもたちの姿にも感動した。

保育士が演じるペープサートとは違った迫力と雰囲気子どもたち、保育士にとっても感動体験の時間となった。



森のはずれのあばら家に住む鬼の夫婦の間に子どもが生まれました。しかしその鬼の子にはいつまでたっても角が生えませんでした。鬼の夫婦はそのことをとても心配して毎晩ねむれませんでした。こっそり鎮守の社にお参りしましたが…

ある雨降りの晩。あばら家の戸をコトンコトンとたたたくものがありました…

子どもたちの思いやりの心を引き出す礒永秀雄の童話の代表作を大型ペープサートで贈ります。

いそながひでお
礒永秀雄 (一九二二—一九七〇)



礒永秀雄は、多くの人々に役に立つ詩や童話を作り続けた山口県の詩人です。太平洋戦争のさなか、学徒臨時徴集で南方の壮絶な戦場に送られ、九死に一生を得た体験から、残された命を詩人にかける決意をした礒永秀雄は、戦後の社会情勢とかわって多くの詩や童話を発表しました。

その作品は学校の教材にも活用され、子どもたちが本来持っている積極的な心を発揚していきます。

上演要綱

上演会場 / 遊戯室や体育館など、各園で子どもたちが集まれる場所ならどこでも上演可能です。

上演時間 / 上演時間は約20分。その前後に設営と撤収の時間がそれぞれ1時間ほど必要です。

公演料 / 2万円

